

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名
国語	古典探究	2	2年次 普通科 スタンダード コース	必修	精選 古典探究 大修館

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、手に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典が方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをできるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
評価の 観点・規準	<p>「知識・技能」</p> <p>古典に用いられている語句の意味や用法を理解したり、語彙を豊かにしたりする解を深める。 修辞や訓読のきまりについて、理解を深める。</p> <p>「思考・判断・表現」</p> <p>文章の種類を踏まえて、構成や展開、古典特有の表現を理解する。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、成立の背景を踏ついて考察する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方がもつ価値への認識を深める。 古典作品に親しむことでもものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化の担い</p>
評価の方法	<p>「知識・技能」</p> <p>小テスト・課題確認テストで評価する。</p> <p>「思考・判断・表現」</p> <p>定期考査で評価する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>提出物の内容や授業内での成果物、授業態度で評価する。</p>

学期	学習計画および内容
1 学期	<p>『宇治拾遺物語』『検非違使忠明のこと』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代仮名遣いおよび品詞の働き、用言の活用を確認する。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。 <p>『蒙求』『両頭蛇』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返り点および置き字の規則を理解して漢文を書き下し、再読文字や句形を身につける。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。 <p>『枕草子』『中納言参りたまひて』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語法および副詞の呼応を理解する。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。 <p>『唐詩選』『登岳陽楼』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩型や押韻など、基礎的な漢詩の知識を身につける。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。
2 学期	<p>『史記』『鴻門の会(一)沛公項王に見ゆ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句形を身につけるとともに、登場人物の主従関係を把握することで内容理解を深める。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。 <p>『大鏡』『競べ弓』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙や文法を把握し、現代語訳する力を身につける。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。 <p>『搜神記』『定伯売鬼』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文の知識を把握し、現代語訳する力を身につける。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。

<p>3学期</p>	<p>『平家物語』『忠度都落ち』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音便や敬語法の多用という、軍記特有の表現に親しみ、内容理解を深める。 ・作品情報や当時の時代背景を理解し、自己の価値観と照らし合わせる。
<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修条件 ・注意事項 <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次で言語文化を履修している。

副教材・出版社名

必修古典文法 大英堂
必修古典文法問題集・文英堂
精説漢文・いいずな書店
精説漢文必修ノート・いいずな書店
古文単語330・いいずな書店

我が国の伝統的な言語文化

などを通じた先人のものの見
を広げたり深めたりすることが

己を向上させ、我が国の言
を育む態度を養う。

けることで、古典作品への理

をまえながら作品の価値に

を深めたりしながら、言葉

の手としての自覚を持つ。

